

新たな価値を創造する力、伝える力

ブランド力に磨きをかける 企業、商品そして人

企業にとって、広く一般の人々に認知してもらうブランド力のアップは大きなテーマ。さまざまなアイデアと卓越した技術、そして優れた情報の発信で、他をリードする専修大学の卒業生20人の戦略。

二〇代後半のとき、トップになろうと決意
いつも、がむしゃらに突っ走ってきた

入学後は、公認会計士試験合格を目標に、がむしゃらに学びました。基本は独学でしたが、二年の終わり頃に、会計士志望の学生たちが集まり、私的な勉強会をつくりました。おかげで仲間意識が生まれ、また何を勉強すればいいのか、自分に足りない部分もわかるようになったのが収穫でした。

入社一年目にして
「組織の都合」を痛感

当時は授業とは別に、一日当たり八時間は会計の勉強をする日々。テレビドラマさながら、下宿では鉢巻きを締めて奮闘しました。その頃は髪の毛をいじる癖があったのですが、鉢巻きの効果でその癖を直すこともでき、一石二鳥でしたね(笑)。

そんなかいあってか、四年次に二次試験に合格。試験の最終日には「やり遂げた！落ちてもいい」と燃焼し尽くした感慨がわいてきたのを覚えています。

卒業後は、先輩の紹介で外資系の会計事務所に就職。ところが、その会社が日系の会計事務所に吸収されてしまった。幸い外資系の事務所に異動できましたが、このとき「組織は組織の都合で動く。この先は自力で生きていこう」と決めました。

二〇代後半で「三五歳までに企業のトップになる」と決意。

そのためには年功序列の日本企業より外資系がいいと考え、まずは英語力を磨くために英国へ留学しました。帰国後、外資系の企業で念願どおりのトップになれたのが奇しくも三五歳のとき。転職を経て今の会社にナンバードとして入社したときは四五歳になっていました。

ブランドینگということでは、当社の分冊方式のパートワークスタイルは出版業界では草分けでした。ただ、私が入った頃は、まだ海外本社やグループ会社のオリジナルを翻訳出版することがほとんど。入社二年目からは、日本オリジナルを増やすことを目標に据えました。約一〇年のあいだに、日本オリジナルは売り上げの八割を占めるまでに成長し、なかには『週

刊世界の100人』のように日本発で成功したコンテンツが、ロシアなど世界のグループ企業に逆輸入され成功を収めるケースも増えていきます。

振り返れば、決めた目標どおりにビジネス人生を過ごしてきたことができました。その支えになったのが、公認会計士試験(第二次)に現役合格したこと。好きなことをやって失敗しても資格があればなんとかなるという「開き直り」が、新たなチャレンジを力強く後押ししてくれたと感じています。



デアゴスティーニ・ジャパン
代表取締役社長
大谷秀之

(1975年商学部卒業)
群馬県出身。会計士を目指して商学部入学。大学4年次に、公認会計士試験(2次)に合格。会計士事務所勤務を経て、英国留学。帰国後、ワーナー・ブラザース、インテル勤務を経て現社に。03年、50歳で社長に就任。文教堂の店頭販売実績(08年)で、雑誌の売上高首位を獲得した。

優秀な女性管理職の
育成が、今後の企業の
発展に寄与する

廣済堂 専務取締役
伊藤敏夫 (1972年法学部卒業)
東京都出身。72年、廣済堂入社。取締役商印営業本部グループ長、常務執行役員出版営業本部長、専務執行役員営業統括本部長などを経て、04年に同社社長に就任。05年より現職。

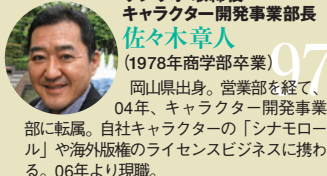


大付属高校からの友人たちとは、今も食事やゴルフに行っています。高校・大学を通して生涯の友人を得られたことに、とても感謝しています。廣済堂に入社した当時は、まだ小さな印刷会社で、仕事も忙しく「大変な会社に入ってしまった」と思ったものです(笑)。しかしその後、印刷事業が順調に伸び、出版関連事業、ゴルフ場、人材関連、藝祭関連事業など次々と事業を拡大。廣済堂レディスゴルフカップ(千葉廣済堂カントリー倶楽部)も今年で二八回を数えるなど、多角的

な事業展開によって、会社の売り上げとブランド力が上がって行く様を体験してきました。そして、印刷・出版業にとっては厳しいこの時代。当社では、ネット事業に加え、女性管理職の育成に力を入れています。すでに、優秀な女性管理職が数人活躍していますが、今後も環境、福利厚生、CSR、IRなど企業としての責任をまっとうし、女性の能力を発揮できる職場にしていきたいと思います。専大生も、チャレンジ精神を旺盛に、器の大きな人間に育ってください。大いに期待しています。

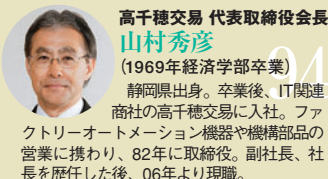
専大で得た
知識と出会い
—ブランディングの
新境地

サンリオ 取締役
キャラクター開発事業部長
佐々木章人 (1978年商学部卒業)
岡山県出身。営業部を経て、04年、キャラクター開発事業部に転属。自社キャラクターの「シナモール」や海外版権のライセンスビジネスに携わる。06年より現職。



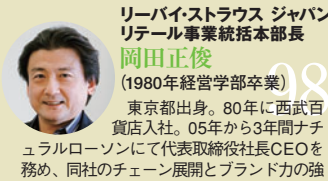
体育会のバレーボール部で毎日練習に明け暮れていました。練習は本当に厳しかったのですが、今となっては懐かしく、楽しい思い出です。部活動を通し人間関係を築くことの大切さ、特に「率先垂範」がいかに大切であるかを学びました。今でも座右の銘として常に心がけています。

高千穂交易 代表取締役会長
山村秀彦 (1969年経済学部卒業)
静岡県出身。卒業後、IT関連商社の高千穂交易に入社。ファクトリーオートメーション機器や機構部品の営業に携わり、82年に取締役。副社長、社長を歴任した後、06年より現職。



学生運動が盛んな時代でしたが、染まることなく普通の学生として、学生生活を楽しんでいました。残念なことといえば、卒業時に体を壊し、就職浪人したことくらい。でも、おかげで仕事ができる喜びを人一倍感じられるようになりました。今ではいい経験ができたと思っています。

リーバイ・ストラウス ジャパン
リテール事業統括本部長
岡田正俊 (1980年経営学部卒業)
東京都出身。80年に西武百貨店入社。05年から3年間ナチュラルローソンにて代表取締役社長CEOを務め、同社のチェーン展開とブランド力の強化を図る。08年3月より現職。



専大では、経済学部教授の中村秀一郎先生(故人)の下で学ぶことができたことに、なによりも感謝しています。中村先生は、日本においてベンチャービジネスという概念を切り開いた人物。ほかにも、多くのすばらしい方々との出会いが、今の自分を支えています。

従来のスタイルを壊し
常識を覆すことで
新たな発想が生まれる

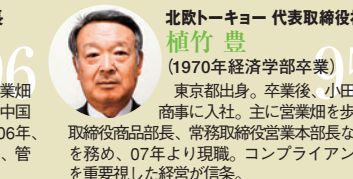
テレビ静岡 代表取締役社長
小林 豊 (1974年経営学部卒業)
静岡県出身。74年、フジボニー入社。80年、フジテレビジョンへ。「笑っていいとも!」のディレクターとして、「ブッチャー小林」の愛称でも親しまれた。その後、営業部、スポーツ局長、取締役などを経て、09年6月より現職。



学は、世の中に出るための職業訓練所と位置づけ、自分に合った仕事、好きな仕事をこの四年間で見つけようという思いがありました。そのために、学校内の活動だけにとどまらず、さまざまな職種のパイトにも挑戦しました。地下鉄工事や家庭教師、印刷所、北海道の酪農家で干し草集めの手伝いなど、五〇くらいは経験したと思います。

テレビの仕事と出合ったのは一年の秋。仕事がおもしろくて、週に七本も番組を持っていた時期もありました。「この仕事で飯

北欧トークー 代表取締役社長
植竹 豊 (1970年経済学部卒業)
東京都出身。卒業後、小田急商事に入社。主に営業畑を歩み、取締役商品部長、常務取締役営業本部長などを務め、07年より現職。コンプライアンスを重要視した経営が信条。



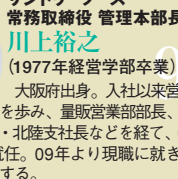
クルマが好きで、バイトをしておカネを貯めては友人たちと、日本中をドライブしました。宿代を節約するために野宿をしながら10日間くらいかけて九州を1周したことも。時間に余裕がある学生時代、いろいろな国や地域を訪れて、見聞を広めてもらいたいですね。

木村技研 取締役
海外本部 副本部長
青山恵美 (1991年法学部卒業)
中国福建省出身。福州市経済委員会に勤務。85年に来日し、専大に入学。04年、快適な水回りと環境づくりに貢献する木村技研に入社。07年より現職。95年、日本国籍取得。



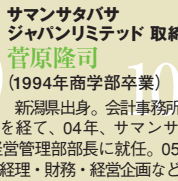
恩師である故・小西基弘先生には在学時、大変お世話になりました。留学生である自分に対し、生活面や友人、事務所の所長など、多くの方々に支えられ、乗り越えることができました。130年の歴史というすばらしいブランドを持つ専大で学べたことは、私の大きな誇りです。

サントリーフーズ
常務取締役 管理本部長
川上裕之 (1977年経営学部卒業)
大阪府出身。入社以来営業畑を歩み、量販営業部部長、中国支社長、東海・北陸支社長などを経て、06年、常務取締役就任。09年より現職に就き、管理部門を担当する。



出牛正芳先生(前学長)のゼミで学んだことが、特に印象に残っています。ゼミでは本気で仲間たちと議論をかわし、レジუმの作成にも熱心に取り組みしました。また、このときに身につけたマーケティングの基本は、現在の仕事をするうえでも、大いに役立っています。

サマンサタバサ
ジャパンリミテッド 取締役
菅原隆司 (1994年商学部卒業)
新潟県出身。会計事務所勤務を経て、04年、サマンサタバサに入社。経営管理部長に就任。05年、取締役就任。経理・財務・経営企画など、経営管理部門全般を統括する。



会計事務所で働きながら、商学部の二部で学びました。仕事と学業の両立は大変でしたが、大学の先生や友人、事務所の所長など、多くの方々に支えられ、乗り越えることができました。130年の歴史というすばらしいブランドを持つ専大で学べたことは、私の大きな誇りです。